

統計調査から見た男女共同参画の現状



くらし・環境部県民生活局 男女共同参画課

構成

I. 本県を取り巻く状況

II. 柱ごとの関連データ

1. 男女共同参画社会の実現に向けた意識の変革と教育の推進
2. 安全・安心に暮らせる社会の実現
3. 職場・家庭・地域における固定的な性別役割分担からの脱却
4. 政策・方針決定過程の場やあらゆる職域への女性の参画拡大

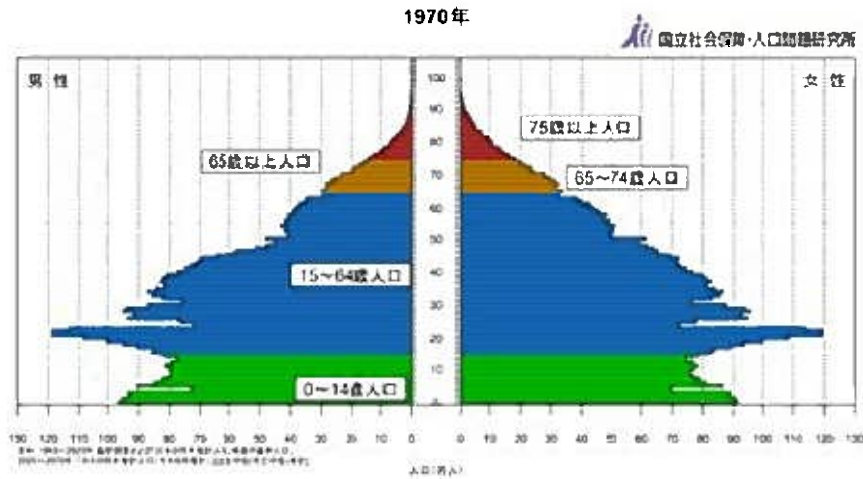
I. 本県を取り巻く状況

～参考データ～

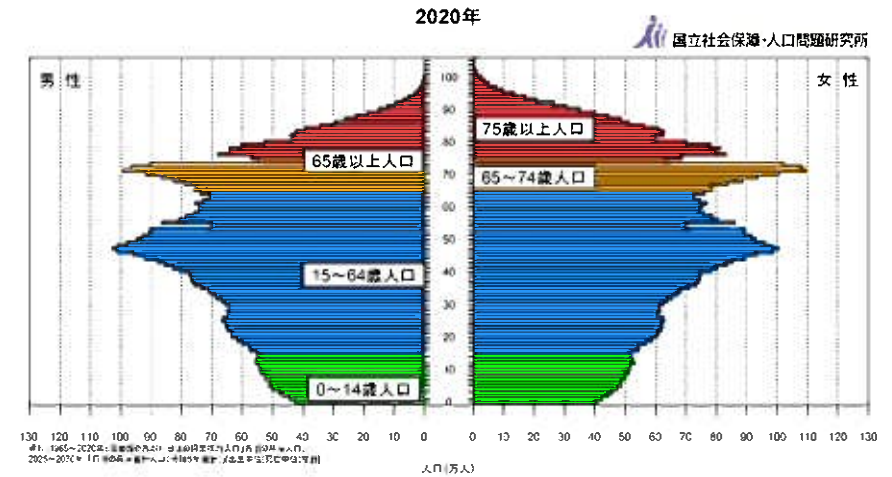
1. 年齢別人口構成
2. 合計特殊出生率の推移
3. 静岡県の人流出の現状
4. 国際的に見た日本の女性の指標
5. 全国から見た静岡県の女性の指標

1. 年齢別人口構成

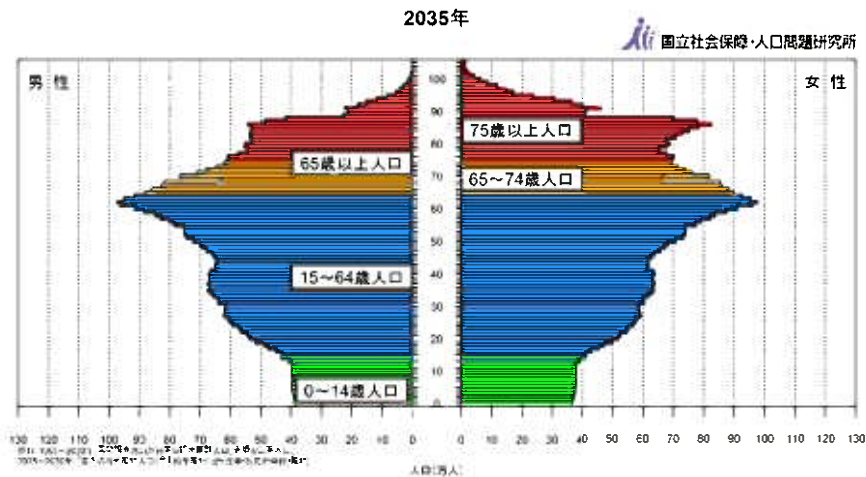
人口ピラミッド (1970年)



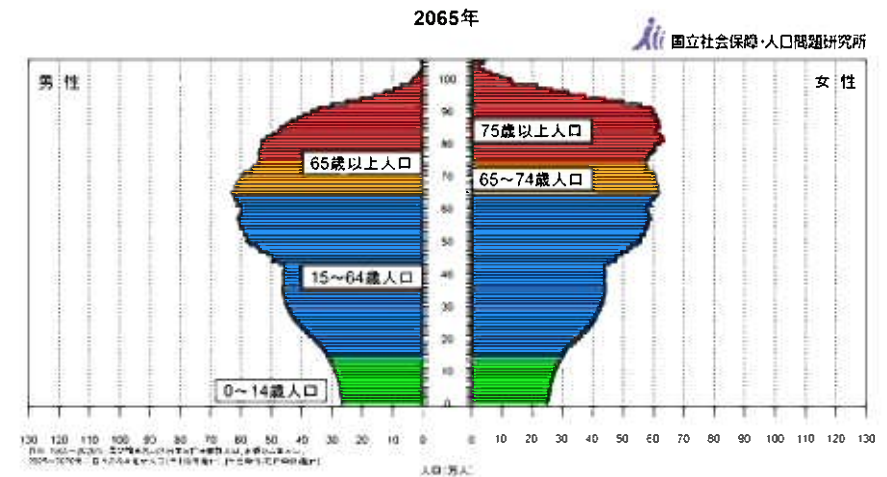
人口ピラミッド (2020年)



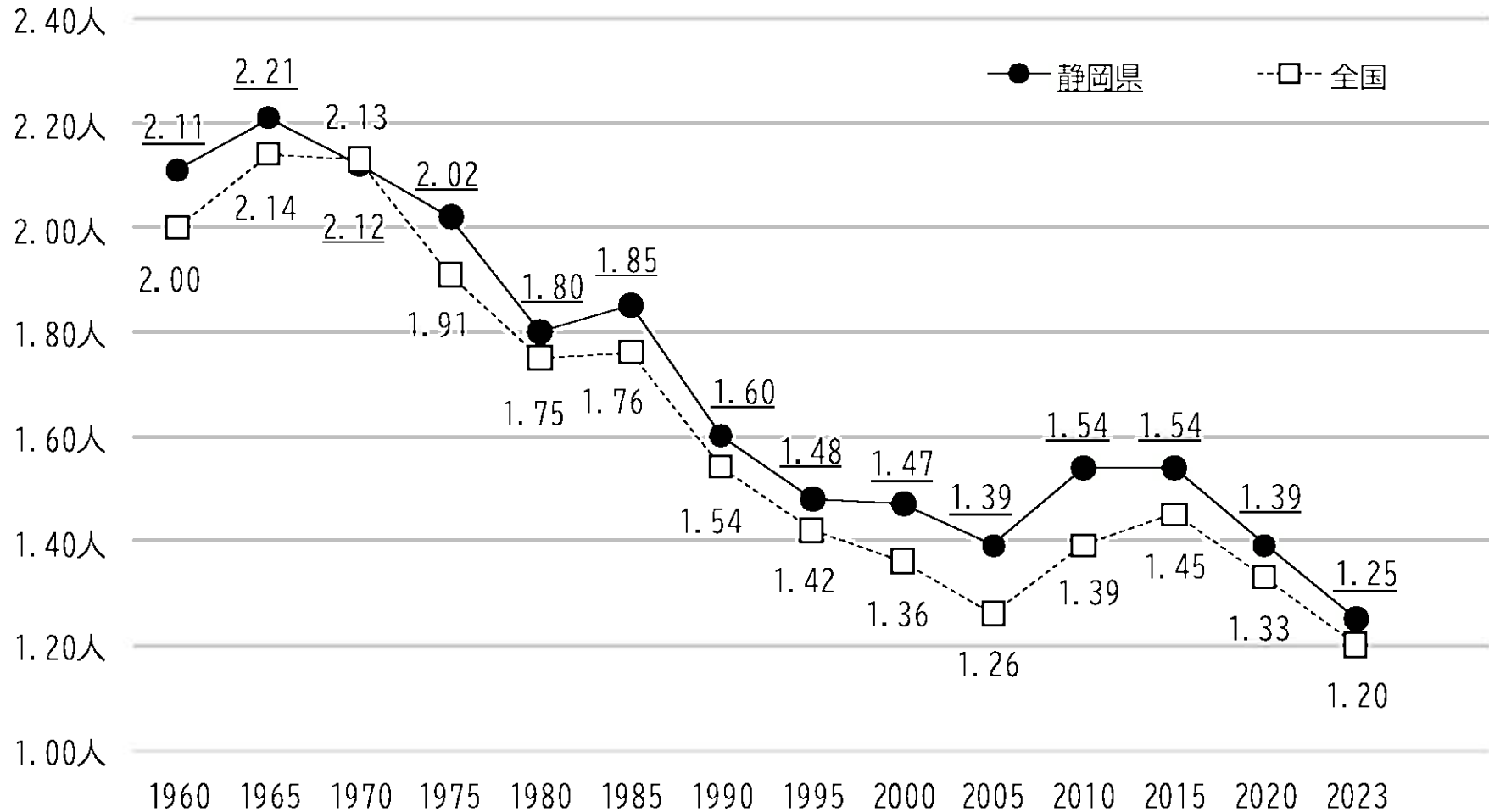
人口ピラミッド (2035年推計)



人口ピラミッド (2065年推計)



2.合計特殊出生率の推移

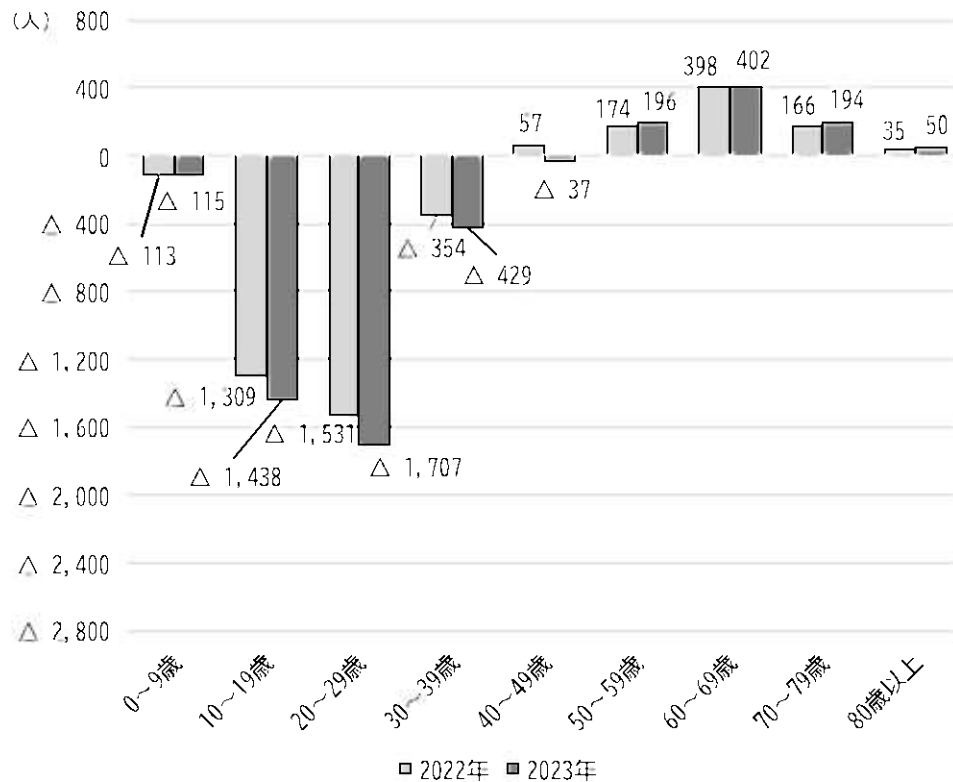


◎ 直近の合計特殊出生率は、本県は1.25で、全国の1.20をやや上回っている。

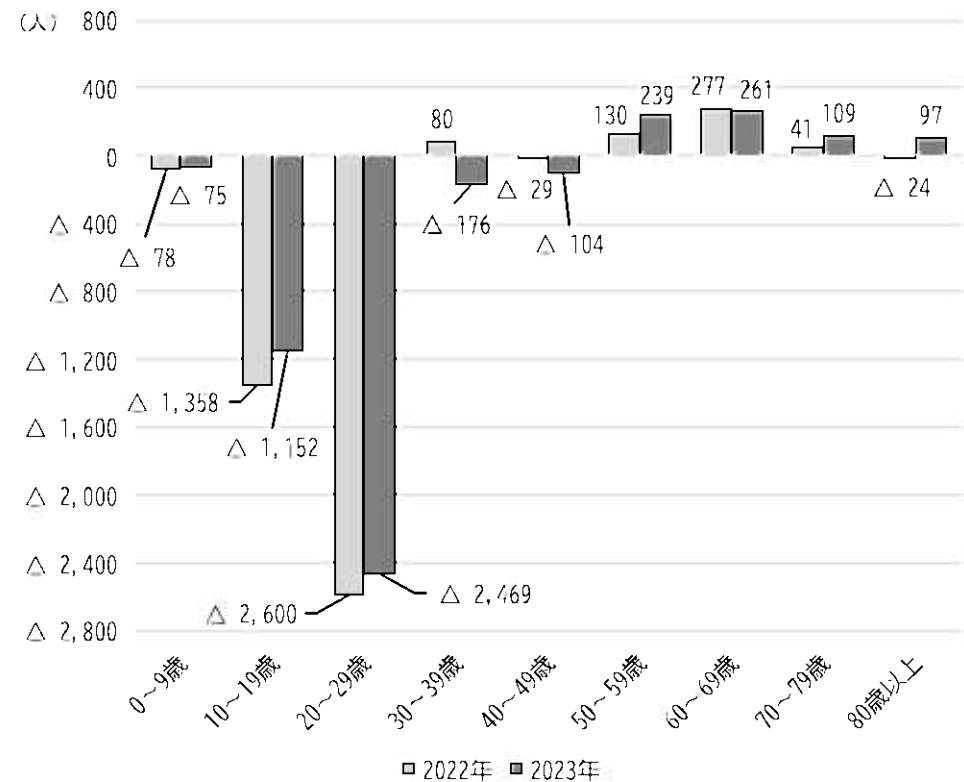
3. 静岡県の人口流出の現状

年齢階層別転入・転出超過数（静岡県）

【男性】



【女性】

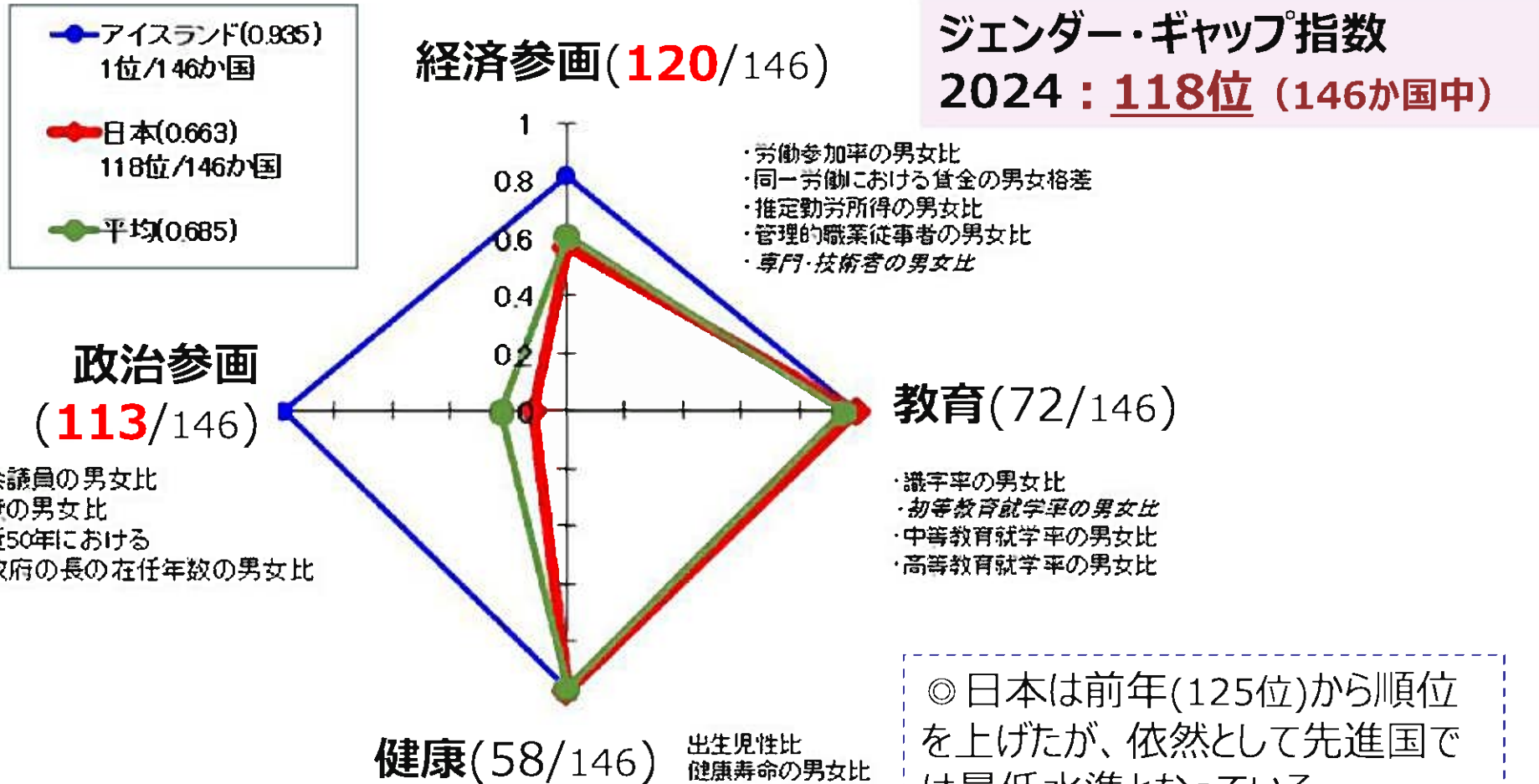


◎ 20代において、女性の転出数が男性の転出数を大きく上回っている。

4. 国際的に見た日本の女性の指標

◇ ジェンダー・ギャップ指数 (GGI : Gender Gap Index)

スイスの非営利財団「世界経済フォーラム」ダボス会議が、男女間の格差を、経済、教育、健康、政治の4分野の指標を用いて測定し、毎年公表。男性に対する女性の割合（女性の数値/男性の数値）を示しており、0が完全不平等、1が完全平等となる。



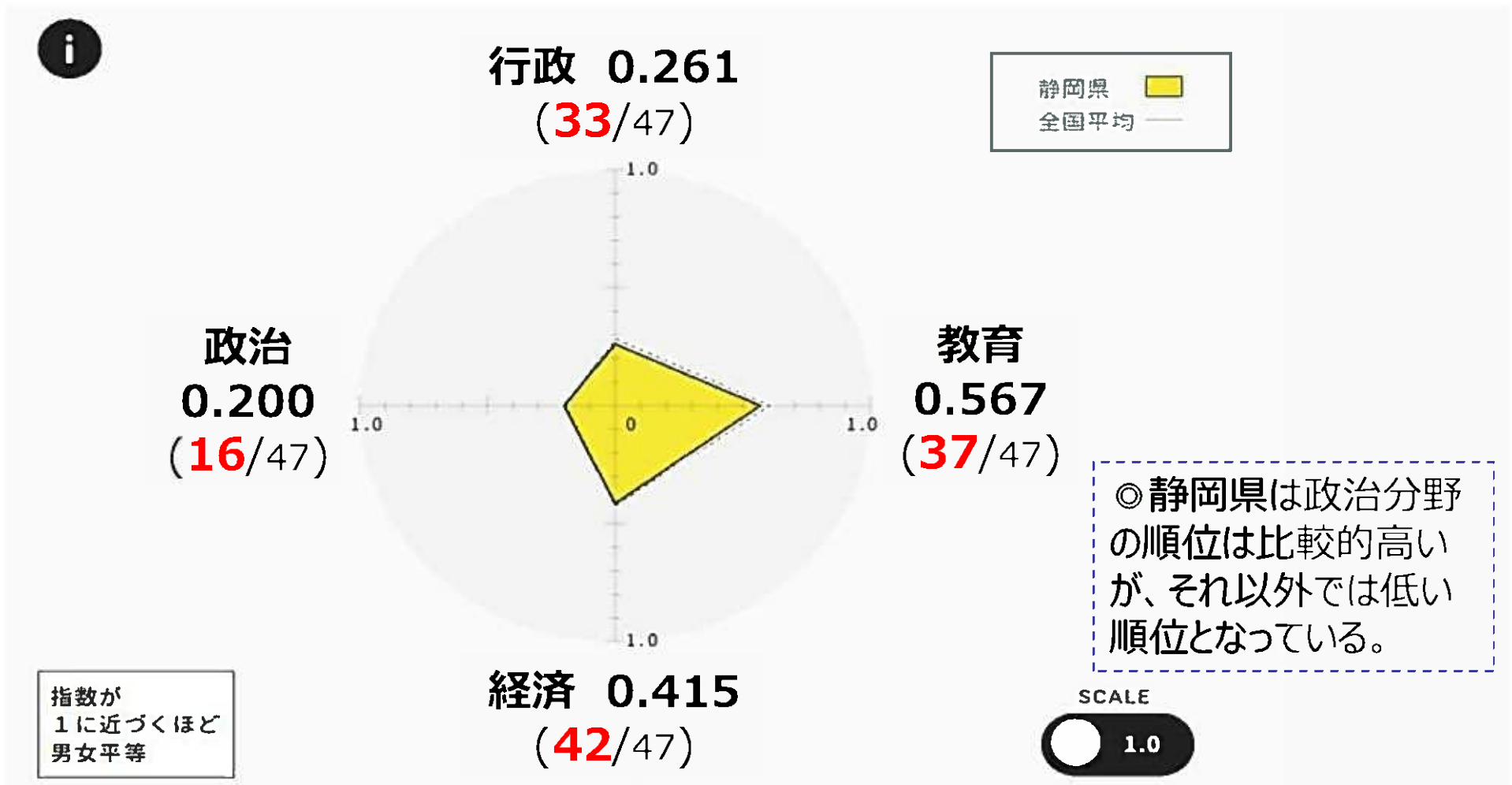
◎ 日本は前年(125位)から順位を上げたが、依然として先進国では最低水準となっている。

(備考) 1. 世界経済フォーラム「グローバル・ジェンダー・ギャップ報告書(2024)」より作成
 2. 日本の数値がカウントされていない項目はイタリックで記載
 3. 分野別の順位: 経済(120位)、教育(72位)、健康(58位)、政治(113位)

5.全国から見た静岡県の女性の指標

◇都道府県版ジェンダー・ギャップ指数

上智大学三浦まりらによる「地域からジェンダー平等研究会」が、地域の男女平等度を可視化するため、世界経済フォーラムが公表する「ジェンダー・ギャップ指数」と同じ手法で男女間の格差を試算・分析し、2022年から公表している。



Ⅱ．柱ごとの関連データ

大柱 1 .男女共同参画社会の実現に向けた 意識の変革と教育の推進

～参考データ～

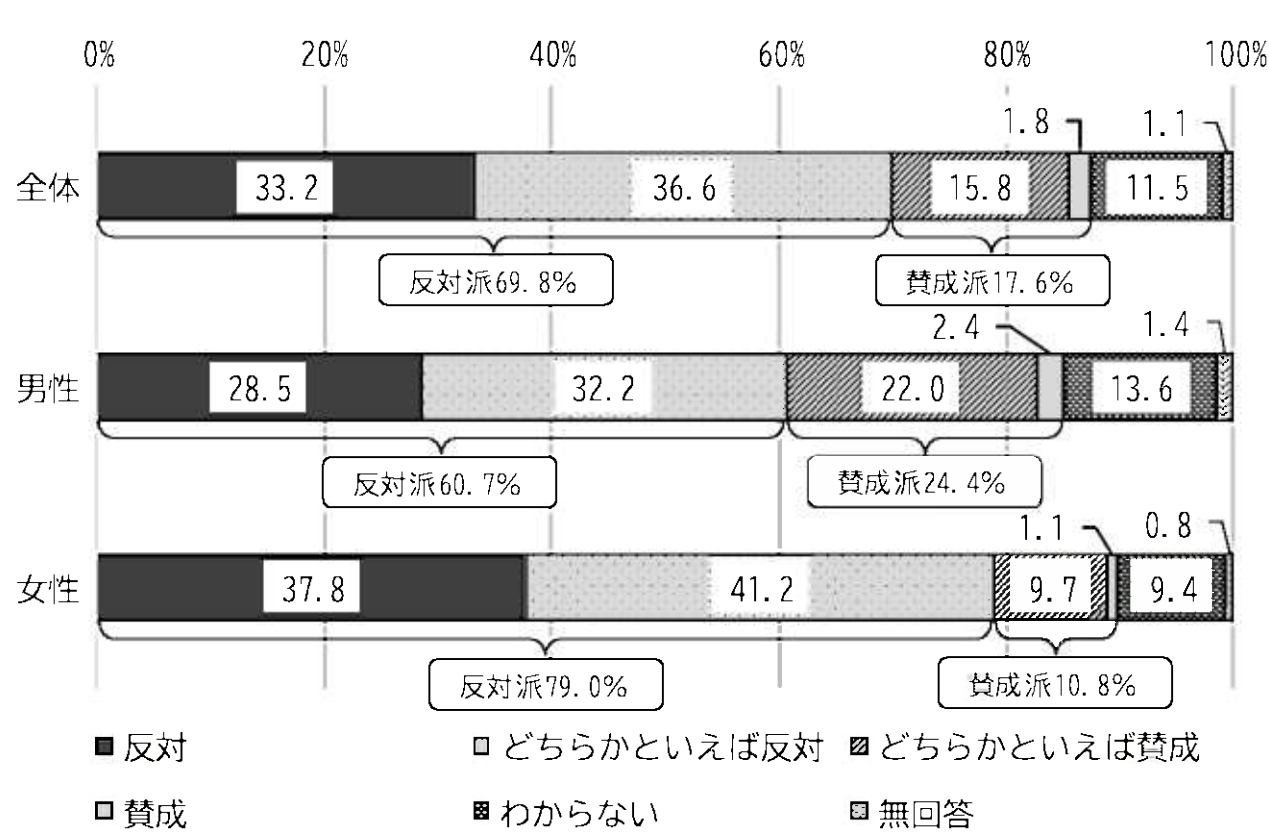
1. 固定的な性別役割分担意識にとらわれない人の割合
2. 「ジェンダー」という用語を知っている人の割合
3. 男女の平等感
4. 男性の家事・育児関連時間

1. 固定的な性別役割分担意識にとらわれない人の割合(男女別)

《固定的な性別役割分担意識》

○「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」というような男女の固定的な役割分担意識

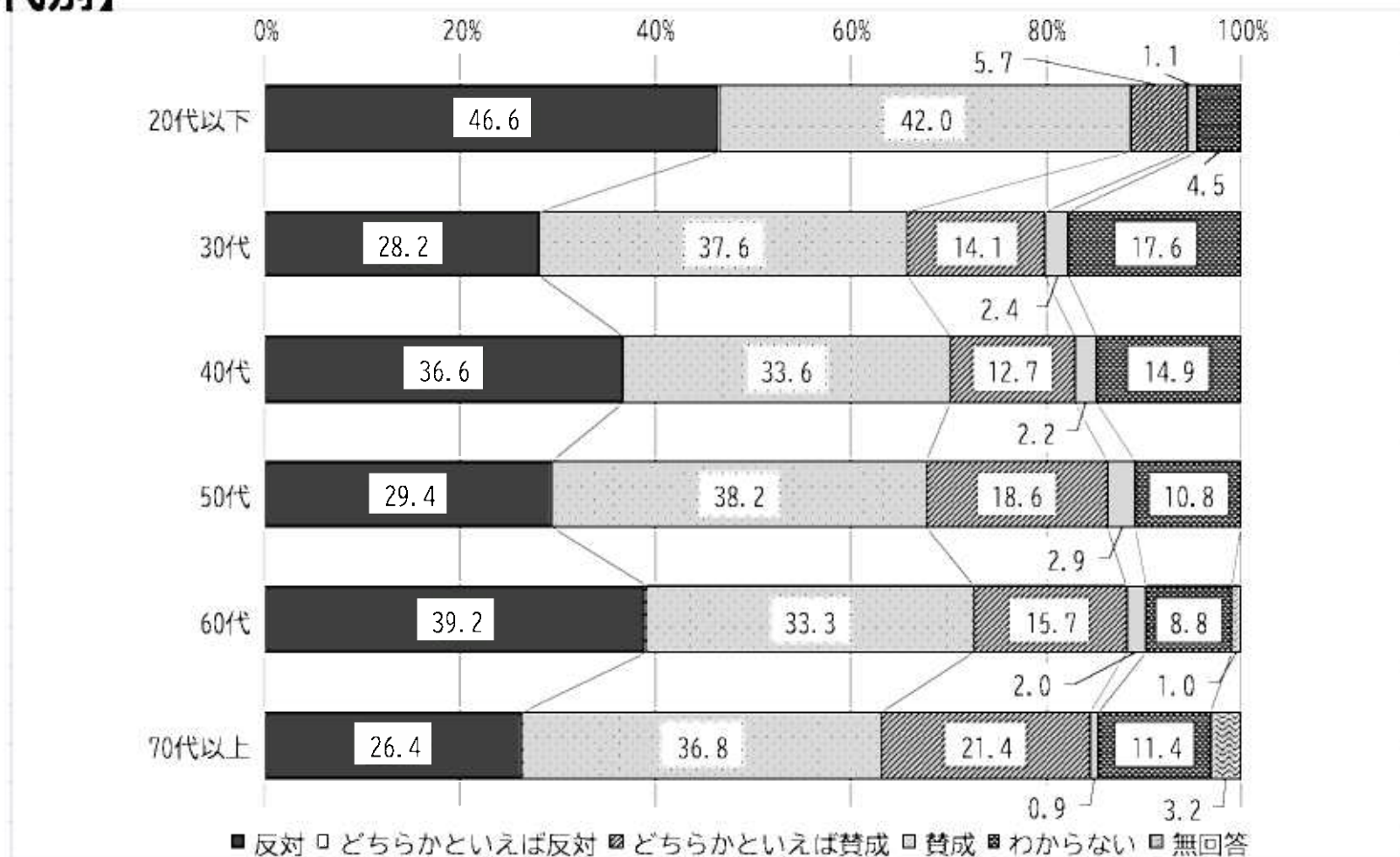
【男女別】



◎男女比でみると、女性の方が反対の意識が高く、意識に差がある。

1-2. 固定的な性別役割分担意識にとらわれない人の割合(年代別)

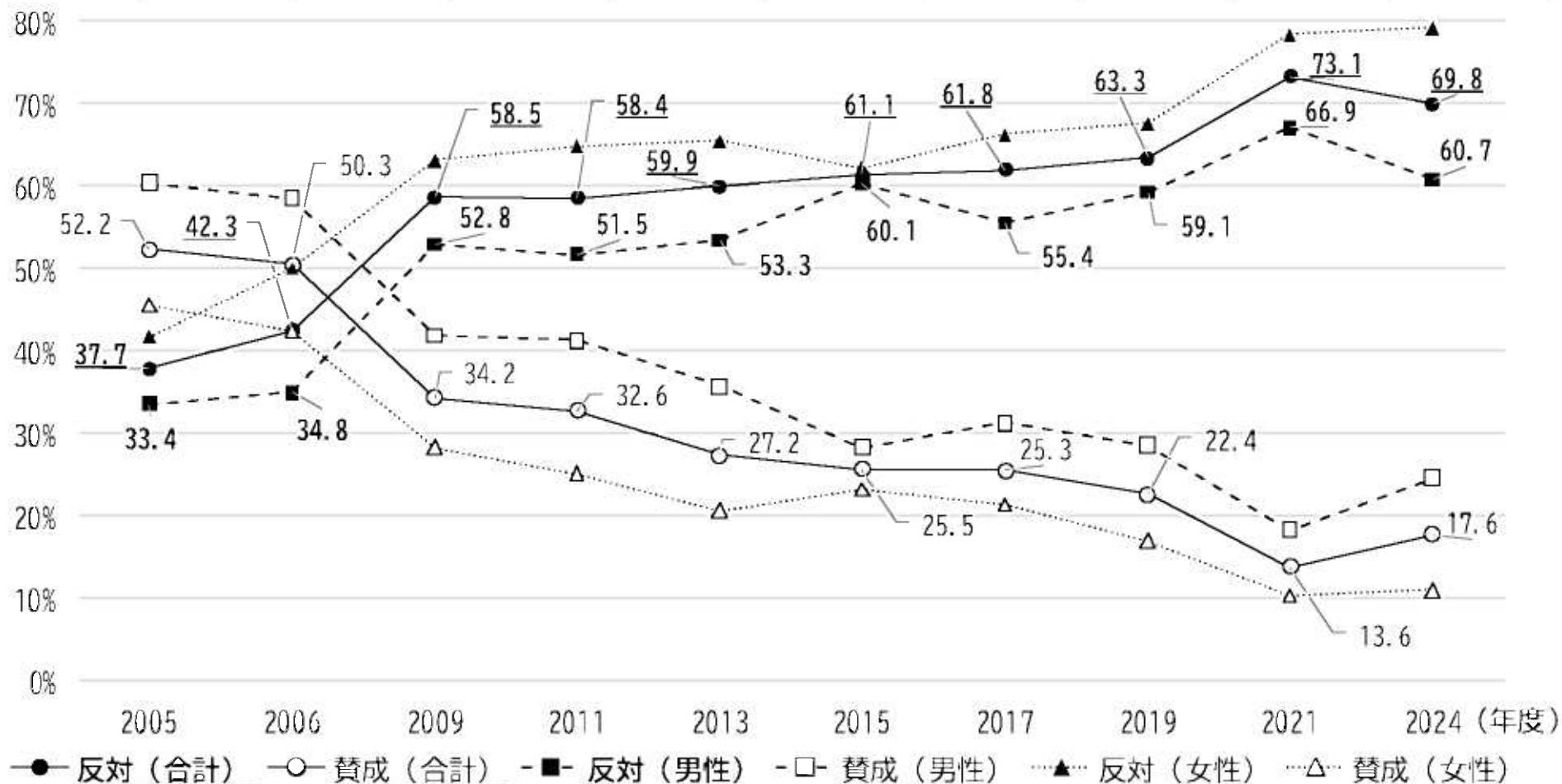
【年代別】



◎「反対」と思う人の割合は、年代によって違いが見られる。

1-3. 固定的な性別役割分担意識にとらわれない人の割合 (経年比較)

【経年比較】



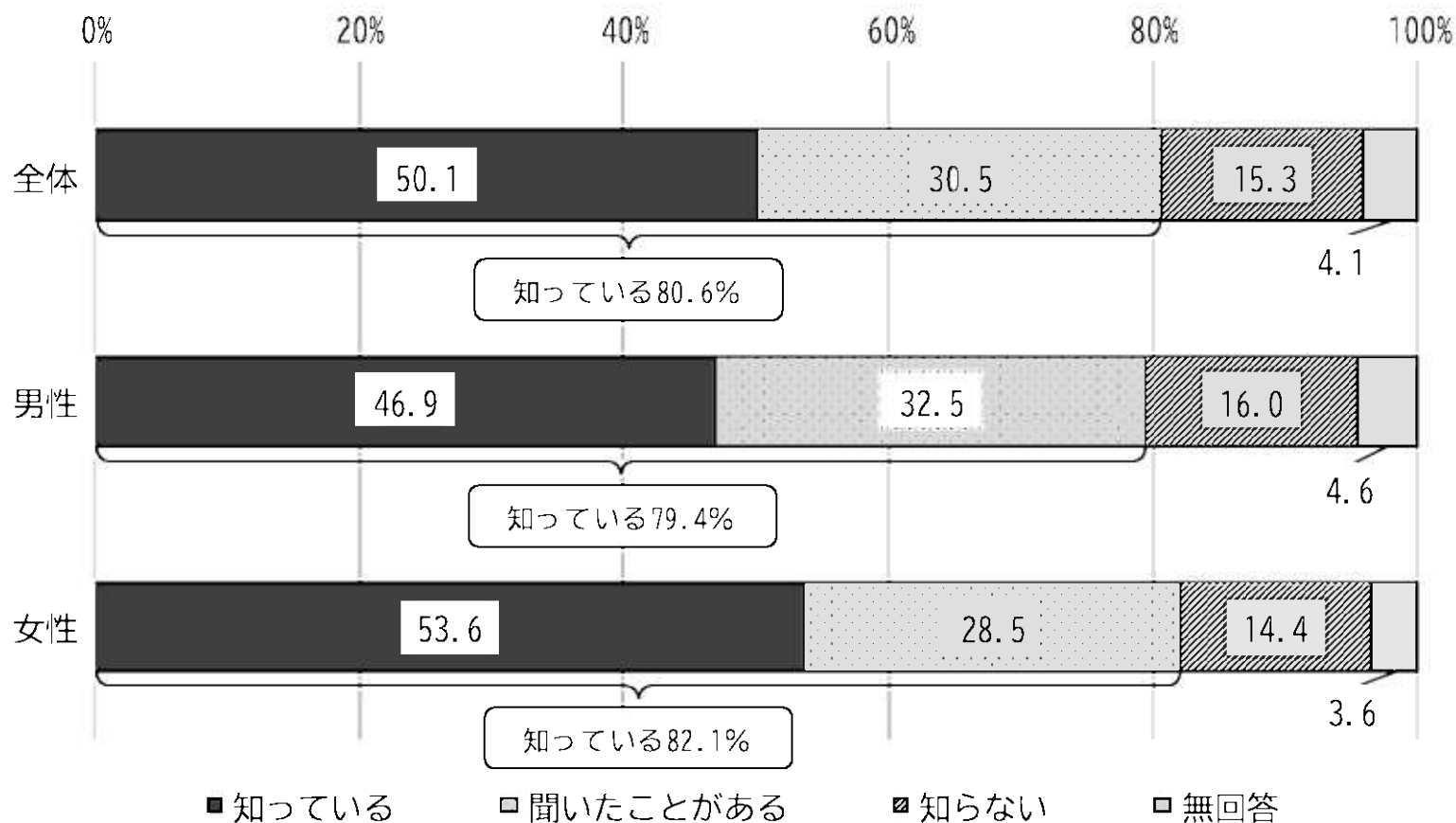
◎「反対」と思う人の割合は、年々増加している。

資料：静岡県の男女共同参画に関する県民意識調査（2024年度）

2.「ジェンダー」という用語を知っている（知っている+聞いたことがある）人の割合

○「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」という用語を知っているか。

【男女別】

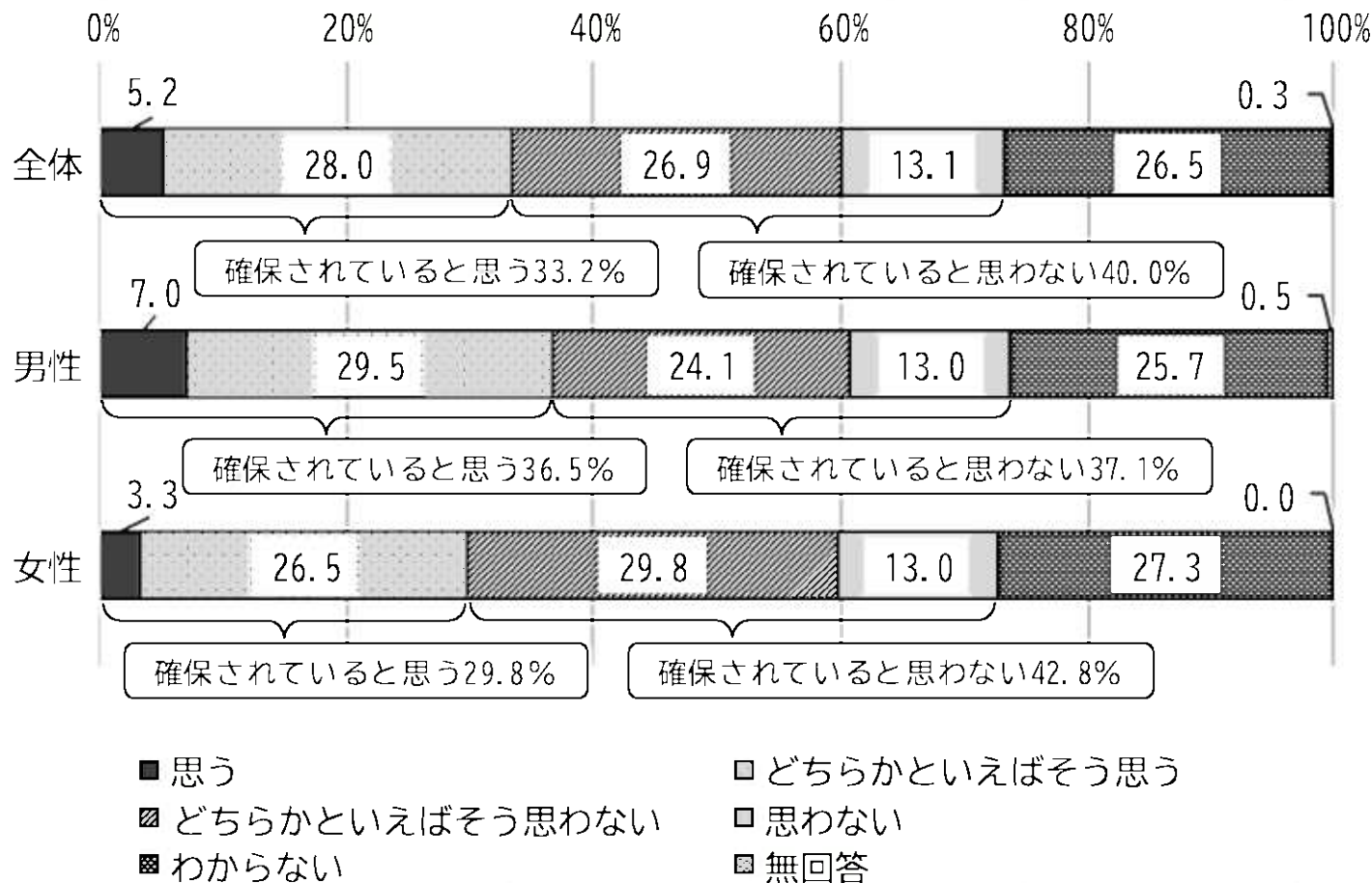


◎約80%の人が「ジェンダー」という用語を知っており、男女差はおおむねない。

3.男女の平等感(男女別)

○男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる機会が確保されていると思うか。

【男女別】

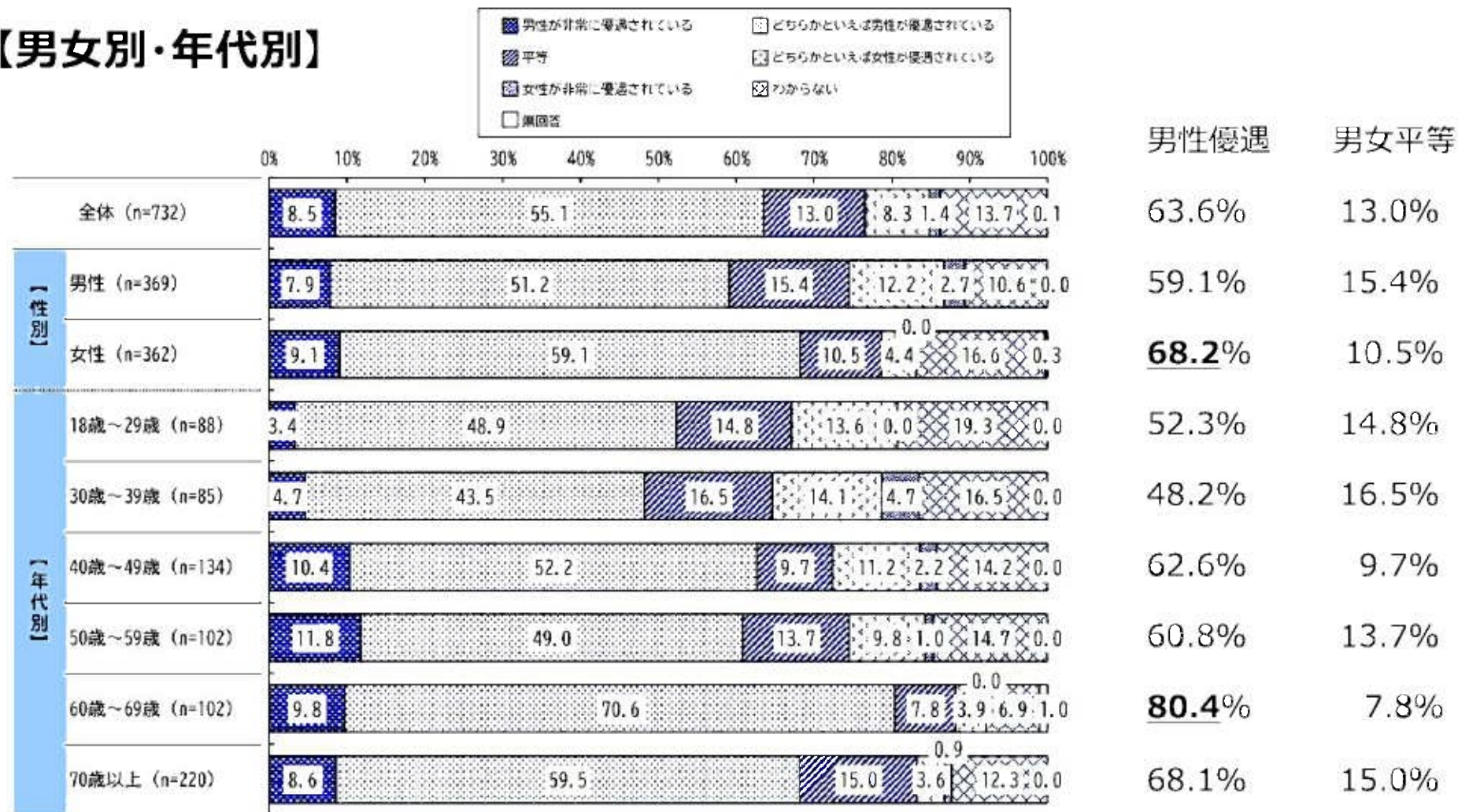


◎男性に比べ女性の方が、「確保されていると思わない」と感じる人が多い。

3-2.男女の平等感(男性優遇割合の男女別・年代別)

○社会全体で見た場合、男女は平等になっていると思うか。

【男女別・年代別】

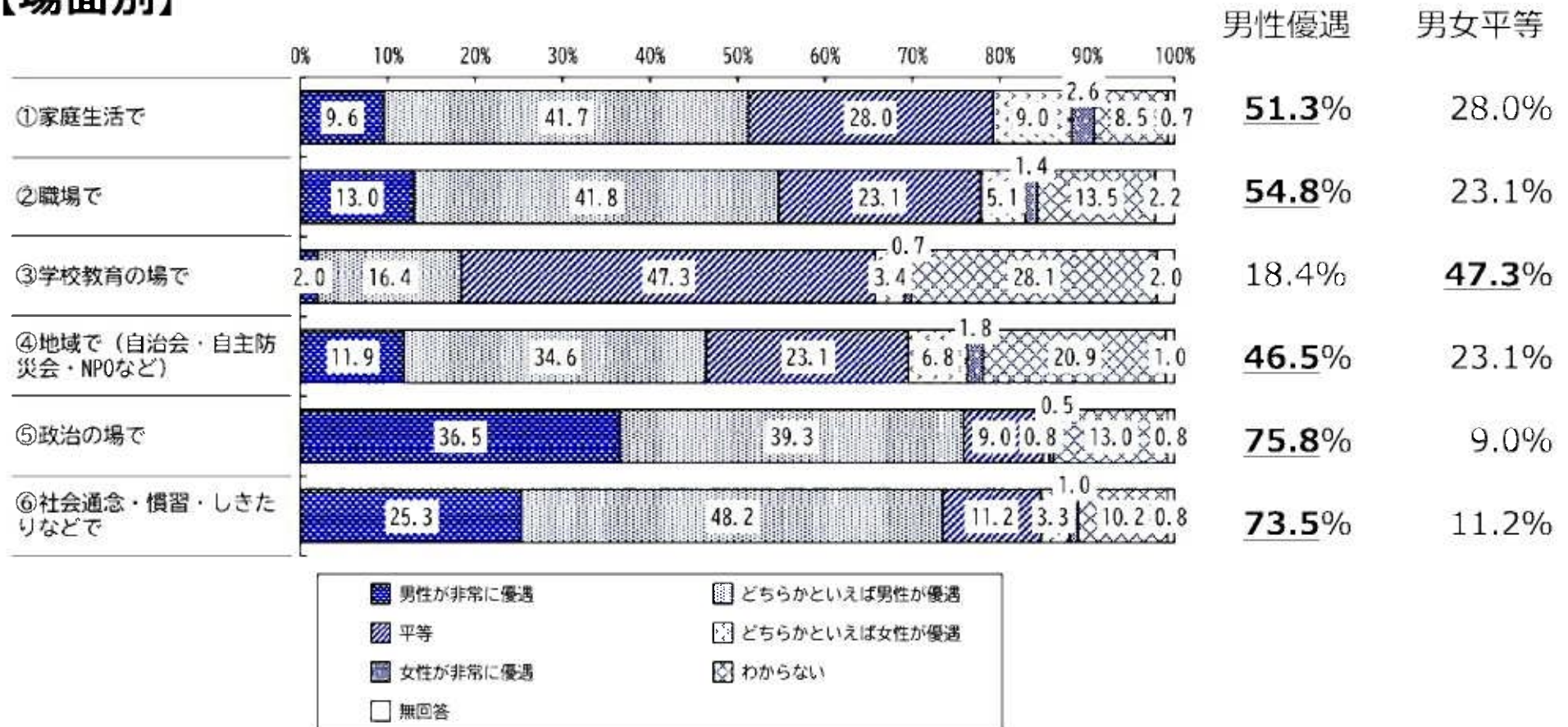


◎男女別では女性の方が、年代別では年代が高いほうが男性優遇と感じる人が多い。

3-3.男女の平等感(男性優遇割合の場面別)

○各分野において、男女が平等であると思うか。

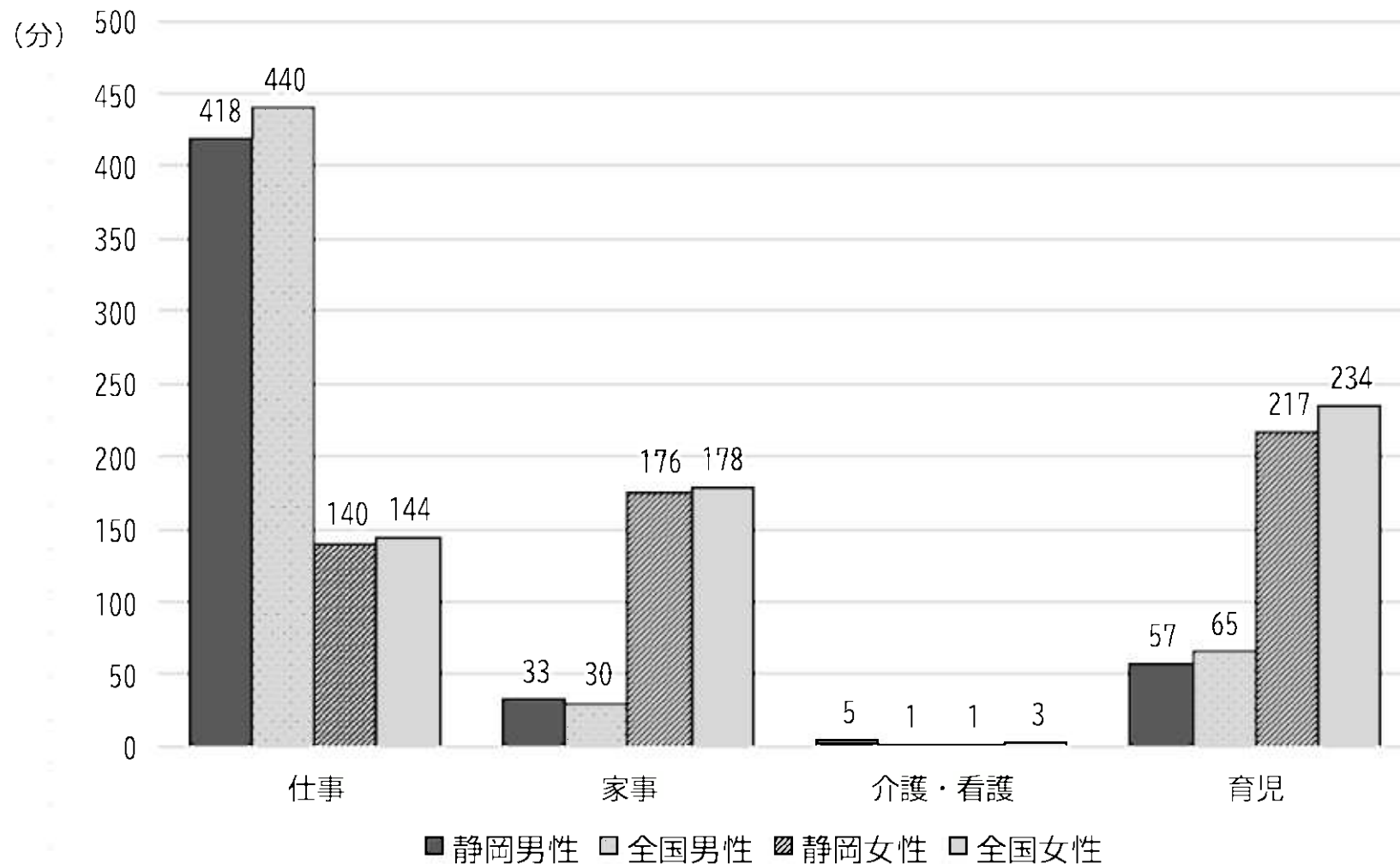
【場面別】



◎「③学校教育の場」では平等感が高いが、それ以外では、男性優遇と感じる人が多い。

4.男性の家事・育児関連時間（県、全国）

○子どもがいる共働き世帯の1週間平均の1日あたりの家事、育児、仕事時間



◎全ての項目で男女間で差はあるが、特に「家事」時間に大きな違いがある。

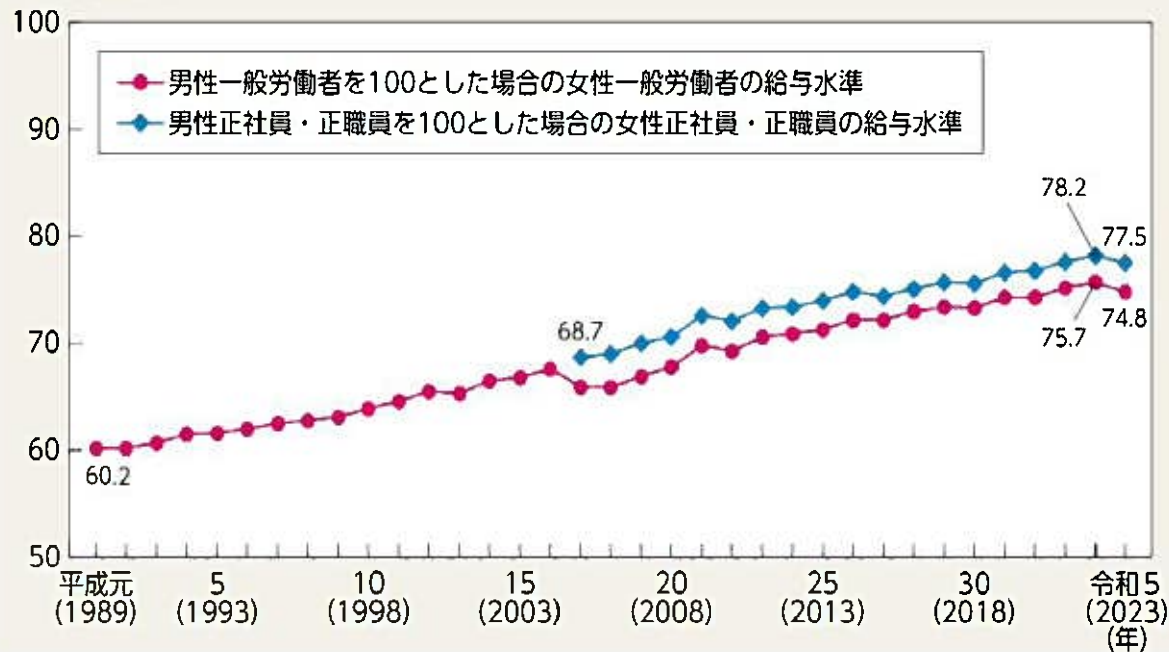
大柱2.安全・安心に暮らせる社会の実現

～参考データ～

1. 男女間所定内給与格差の推移
2. 男女間で行われた場合、暴力にあたるかどうかの認識
3. リプロダクティブ・ヘルス/ライツという言葉を知っている人の割合
4. 性の多様性に関する施策についての認識

1. 男女間所定内給与格差の推移

(基準とする男性
の給与=100)



(備考)

1. 厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より作成。
2. 10人以上の常用労働者を雇用する民営事業所における値。
3. 給与水準は各年6月分の所定内給与額から算出。
4. 一般労働者とは、常用労働者のうち短時間労働者以外の者。
5. 正社員・正職員とは、一般労働者のうち、事業所で正社員・正職員とする者。
6. 雇用形態（正社員・正職員、正社員・正職員以外）別の調査は平成17（2005）年以降行っている。
7. 常用労働者の定義は、平成29（2017）年以前は、「期間を定めずに雇われている労働者」、「1か月を超える期間を定めて雇われている労働者」及び「日々又は1か月以内の期間を定めて雇われている者のうち4月及び5月に雇われた日数がそれぞれ18日以上労働者」。平成30（2018）年以降は、「期間を定めずに雇われている労働者」及び「1か月以上の期間を定めて雇われている労働者」。
8. 令和2（2020）年から推計方法が変更されている。
9. 「賃金構造基本統計調査」は、統計法に基づき総務大臣が承認した調査計画と異なる取扱いをしていたところ、平成31（2019）年1月30日の総務省統計委員会において、「十分な情報提供があれば、結果数値はおおむねの妥当性を確認できる可能性は高い」との指摘がなされており、一定の留保がついていることに留意する必要がある。

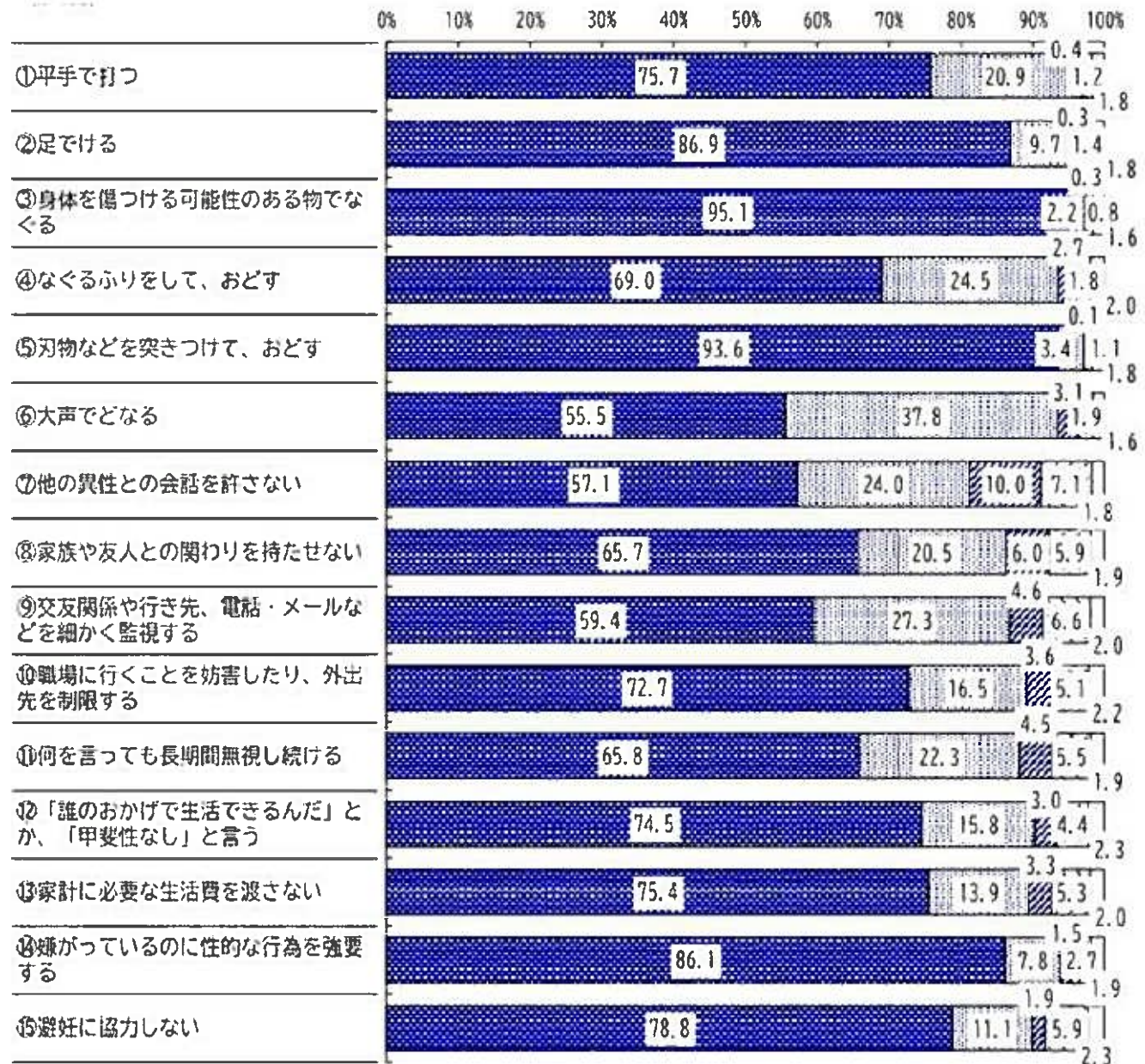
◎男女間の給与格差は縮小傾向にあるが、女性は男性のおよそ7割にとどまっている。

2.男女間で行われた場合、暴力にあたるかどうかの認識

○夫婦・恋人などの親しい間柄にある男女間で行われた場合、それを暴力だと思うか。

◎身体的暴力については、「暴力」と思う傾向が強い。一方で、身体的暴力以外の暴力に対する認知度が比較的低い。

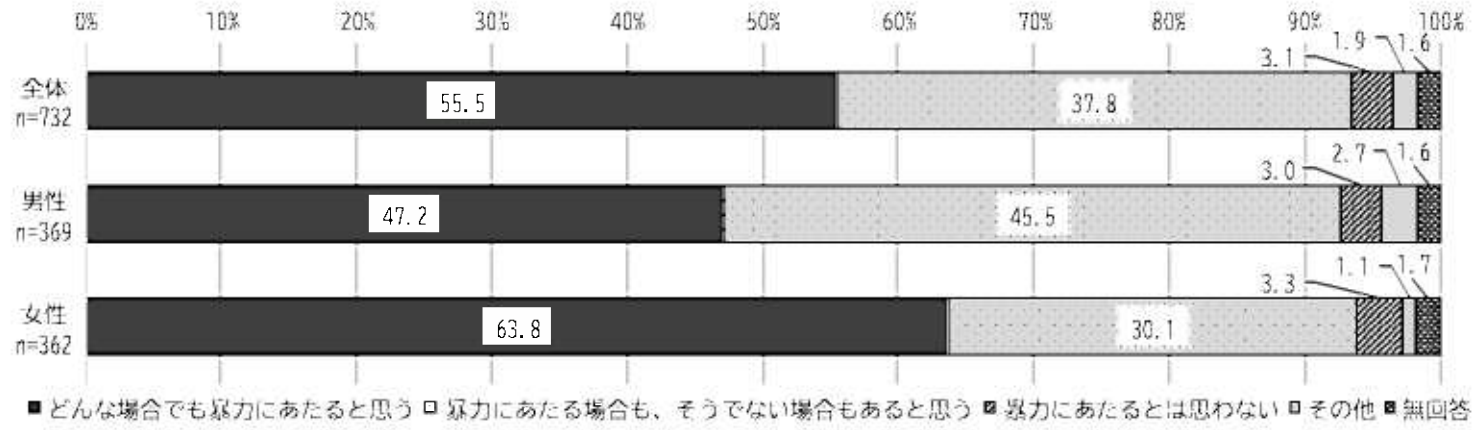
- どんな場合でも暴力にあたると思う
- 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
- 暴力にあたるとは思わない
- その他
- 無回答



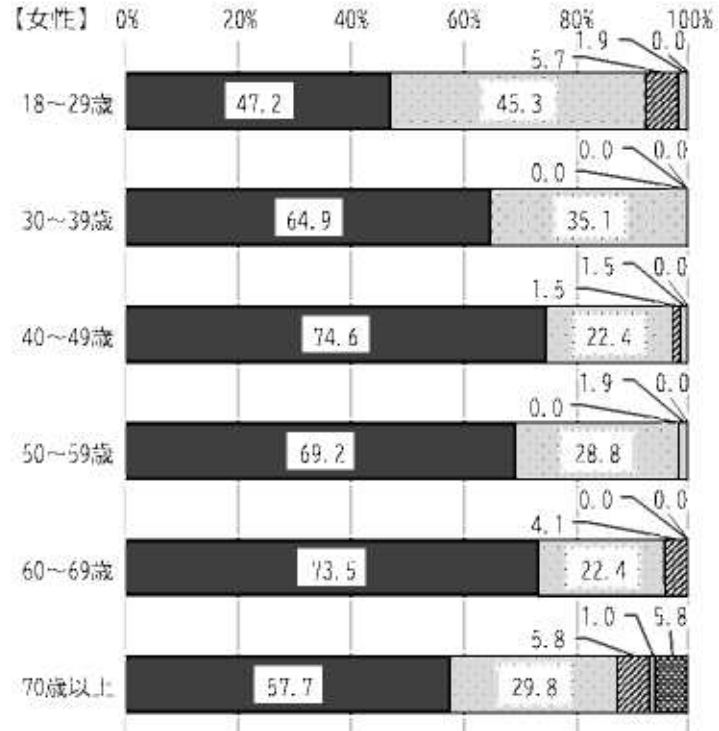
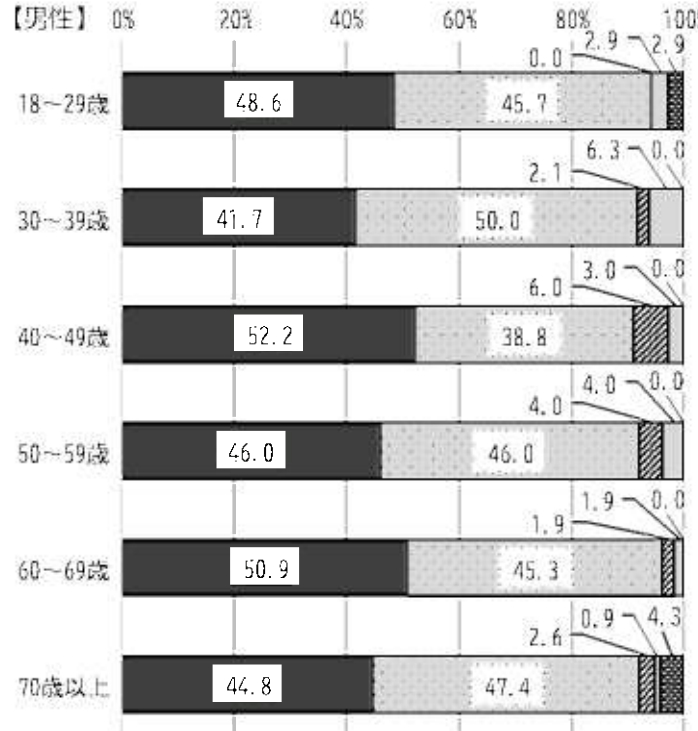
2-2.男女間で行われた場合、暴力にあたるかどうかの認識 (場面別) ※一部抜粋

⑥ 大声でどなる

○夫婦・恋人などの
親しい間柄にある男
女間で行われた場合、
それを暴力だと思うか。



◎全体の5割以上が「どんな場合でも暴力にあたる」と思っており、30歳以上の世代では女性のほうが「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高い。

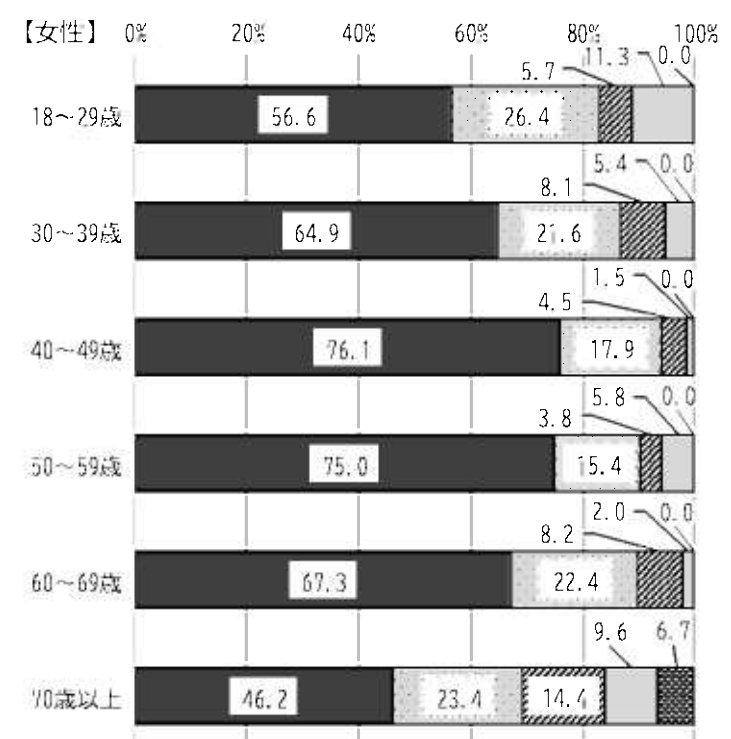
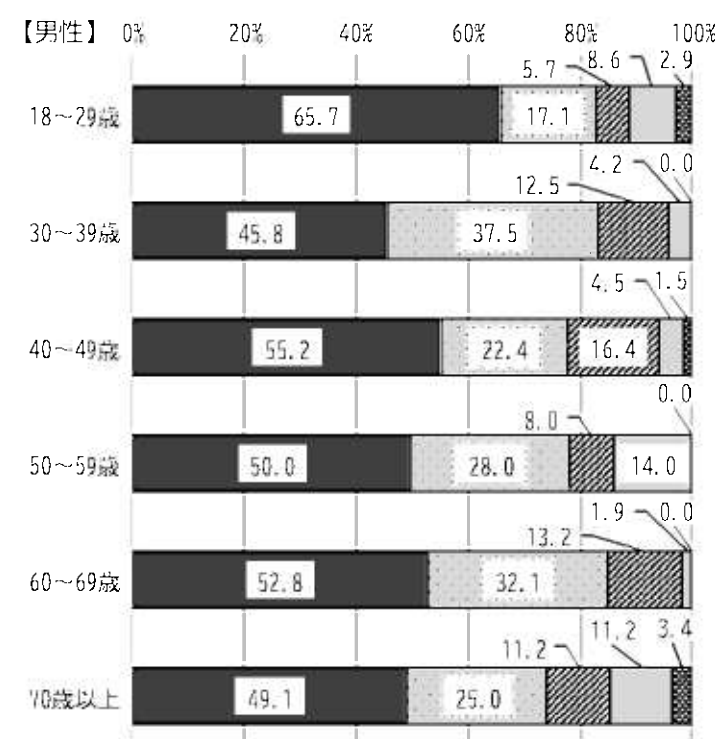
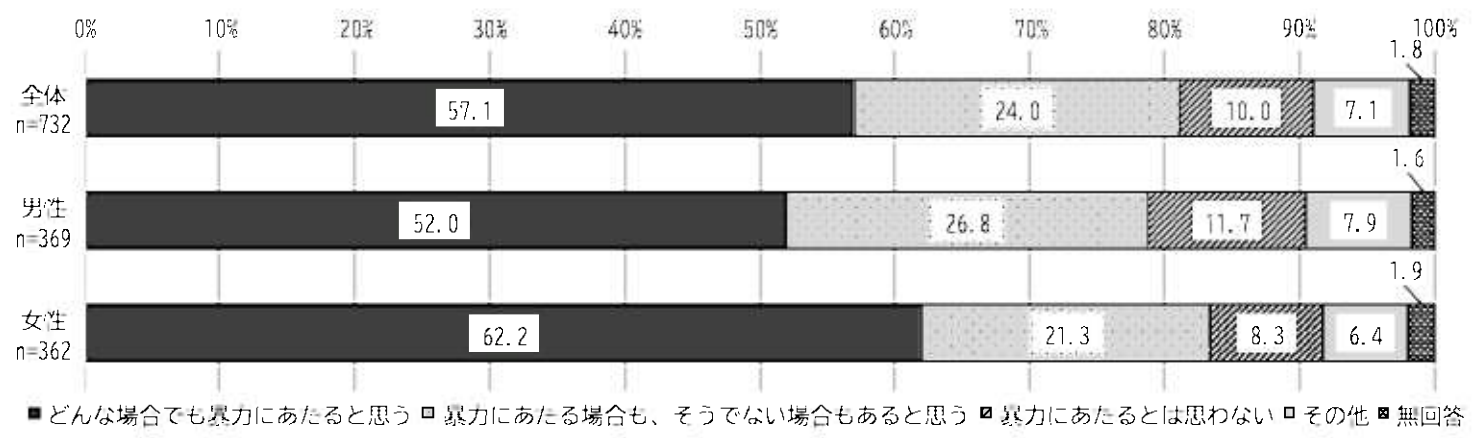


2-3.男女間で行われた場合、暴力にあたるかどうかの認識 (場面別) ※一部抜粋

⑦他の異性との会話を許さない

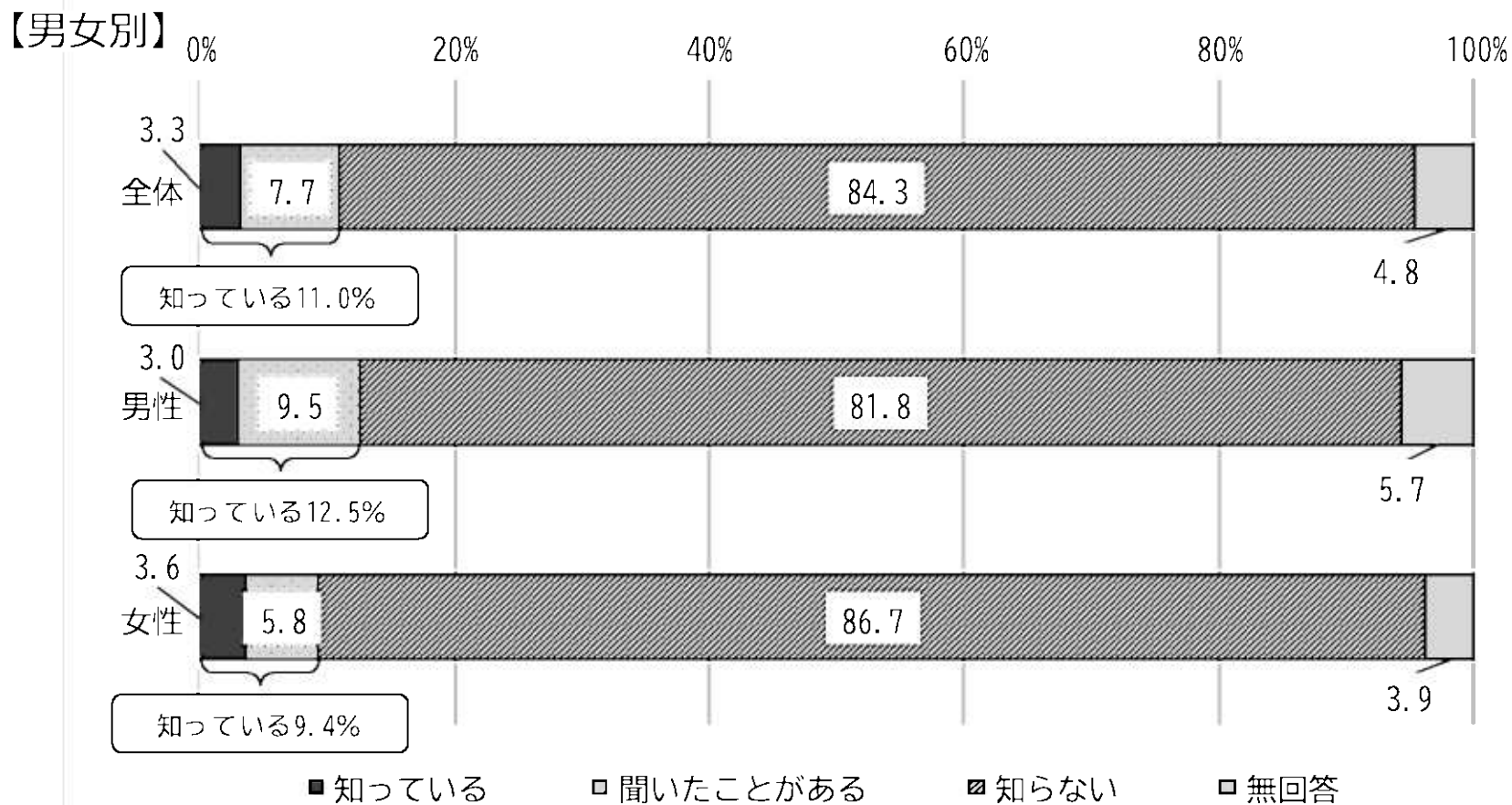
○夫婦・恋人などの親しい間柄にある男女間で行われた場合、それを暴力だと思うか。

◎「どんな場合でも暴力にあたると思う」は全体の6割弱であり、女性のほうが割合が高いが、年代別にみると29歳以下と70歳以上では男性のほうが割合が高い。



3.「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」という用語を知っている (知っている+聞いたことがある) 人の割合

○「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」という用語を知っているか。

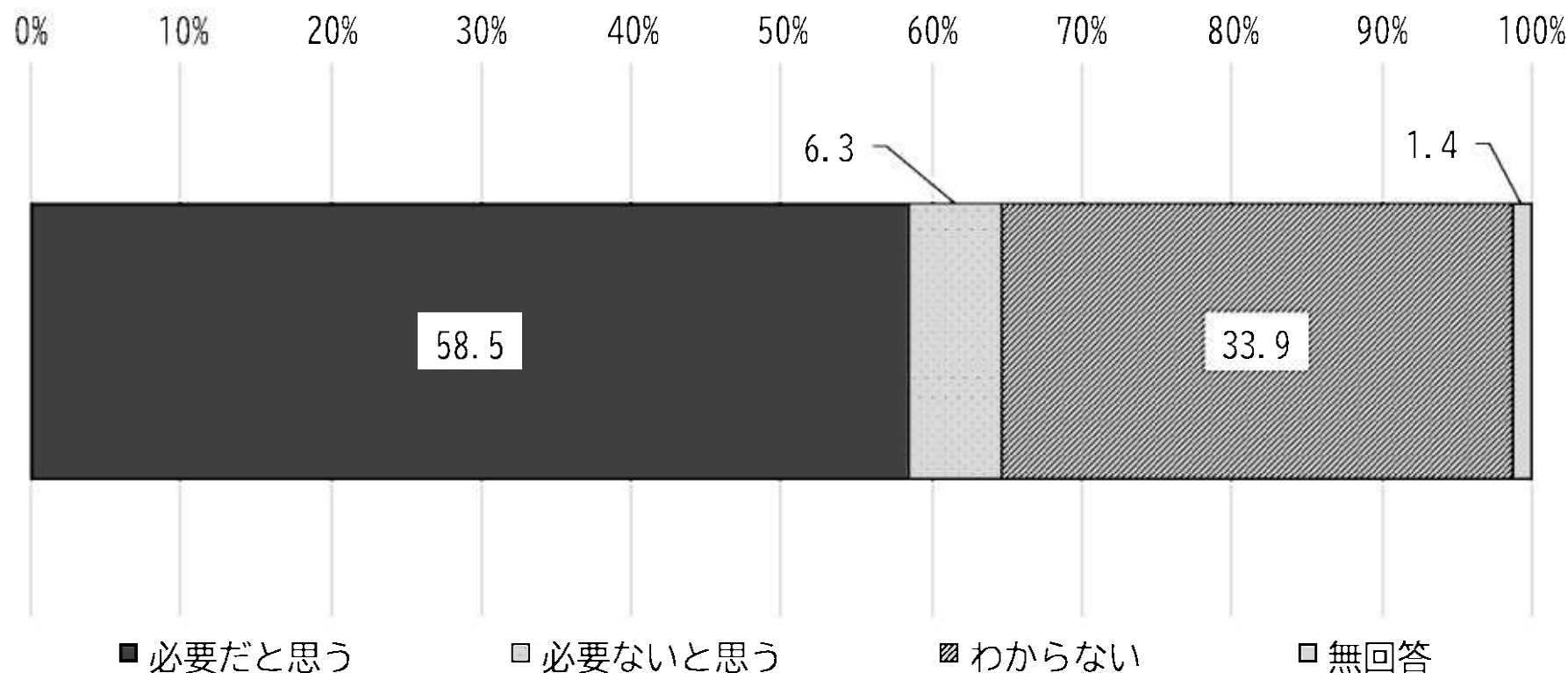


◎「知っている」+「聞いたことがある」人の割合は、全体で11.0%と低い状況。

4.性の多様性に関する施策についての認識

○性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、必要だと思いますか。

【全体】



◎半数以上の人が性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策を必要だと感じている。